

緑の担い手

緑の雇用研修を 終えて

つくばね森林組合
本田 雅俊

私はつくばね森林組合へ入組してから、約10年間キャンプ場で事務職をしていました。チェーンソーや刈払機を扱う機会はほとんどなかったので、緑の雇用を受講するとなった時は、不安な気持ちでした。

現場初日では、はじめにチェーンソーの使い方、目立て等を教わり、午後から受け口の作り方の練習をしました。途中からチェーンソーを持つ腕が上がらなかつたのを今でも覚えています。間伐作業をする時も選木に迷ってしまうことが多かったのですが、1本1本伐る理由を考えなさいと指導員からアドバイスをいただき、日に日に技術と知識を得ることが出来ました。

先日、緑の雇用研修3年間の講習が終了しました。研修では、林業の知識をはじめ林業機械の操作やメンテナンス方法、実技研修では同期の

緑の雇用生の実技を見て学ぶことが多かったです。

今は、作業道の作設をしています。機械操作や作設においての知識や技術はまだまだ未熟ですが、研修で学んだことを少しでも実践出来るように頑張っています。

林業は、山の中の急斜面で作業する時もあり、事故に繋がる危険なことも多いので、安全を最優先することが大切です。私もどんな作業をする時も無理はせず安全を第一に考えて、怪我なく作業をしていきたいと心掛けています。これから新しい技術や知識を習得して、新しいことにもチャレンジしながら、良い山づくりを目指していきたいと思っています。

